国際会議報告

「第 11 回国際腐食会議」参加印象記*

藤　本　慎　司**

1990 年 4 月 2 日～6 日にイタリア・フィレンツェにて開催された 11th International Corrosion Congress に参加した．この会議は International Corrosion Council（日本からは佐藤教男北海道大学名誉教授，岡田秀彌新日鉄顧問が参画）により組織され，1961 年にロンドンにて第 1 回が開催されて以来，ほぼ 3 年ごとに行われてきた，金属の腐食全般を対象とする国際会議である．今回はイタリア金属学会（AIM : Associazione Italiana di Metallurgia）が主催した．なお，この国際会議の名称は前回までは International Congress on Metallic Corrosion であったが，今回より「金属」がとれ，セラミック，ポリマー等の非金属の耐環境性についても討議に加えられることになった．会場にて配布された参加者名簿によると，約 30 か国より 500 人余りの参加があり，発表件数は口頭発表が約 200 件，ポスターが約 100 件と盛会であった．日本からは約 35 名が参加した．

会議初日のオープニングセッションでは本会議組織委員長の *F.* Mazza 教授および AIM 会長の *S.* Gallo 教授の挨拶に続いて *G.* Morales フィレンツェ市長の歓迎の挨拶があり，この町が建築・美術のみならずレオナルド・ダ・ビンチをはじめとして数多くの科学者達が活躍した町であることを紹介した．さらに，フィレンツェ市内の美術品の保存について述べ，環境汚染による損傷が深刻であり，防止・保存のために腐食科学が重要であることを強調した．引き続き，本会議を組織する International Corrosion Council 議長の *J.* Kruger より前述の会議名称変更についての説明などがあった．

会議は毎朝の最初に Plenary lecture があり，後は 6 会場に分かれて一般講演とポスターセッションが平行して行われた．Plenary lecture の講演者および題目は以下のとおりである．*P.* Parrini (Italy) : Corrosion and deterioration of materials in artworks, *T.* Murata (Japan) : Innovation and technology Transfer for corrosion control, *M.* Pourbaix (Belgium) : International cooperation in the prevention of corrosion of materials, *R.* Staehle (USA) : Situation dependent strength-at the interface between materials and design, *L.* Uller (Brasil) : The structure of corrosion science and technology in developing countries. 今回の会議では歴史都市フィレンツェにちなんで Corrosion and conservation of artifacts のセッションが設けられたが，*P.* Parrini の講演では，美術品の実例を示しながら普段あまり知る機会の無いこれらの問題についての興味深い解説があった．今回の会議には Innovation and technology transfer for corrosion control なるサブ・テーマが掲げられていたが，村田朋美氏（新日鉄）の講演はこれに応じたものである．*R.* Staehle はエンジニアリングの観点からおもに装置材料の腐食防止に必要な設計の指針について述べた．*L.* Uller の講演では主に南米での腐食技術の現状・技術者養成教育について紹介した．他の一般講演等についての紹介は割愛させていただくが，この分野の会議としては大規模であるために，特に焦点のはっきりしない会議となり，とくに目新しい研究成果の報告は少なかったと筆者には感じさせられたが，各国からの参加者が情報交換するうえで有意義な会となった．

ところで，本会議は言うまでもなく世界有数の歴史観光都市で開催されたために，会議以外に興味の対象はいくらでもあり，フィレンツェ市内見学の方に熱心な参加者も多かったようである．歩いて回るにはちょうど手ごろなこの町には，いたるところに著名な歴史的建造物があり，さらにそれらの内部には第一級の美術品が無数に所蔵されている．まさに町全体が博物館と言うべきところで，おおいに楽しませてもらった．とは言っても，何かとトラブルの多いこの国のことであり，筆者は会議前日にイタリア国鉄（恒例？）のストライキのため，列車で 3 時間ほどのミラノ-フィレンツェ間をバスを乗り継いで 9 時間ほどかけてやっとのことでたどり着くという災難に見舞われた．また日本からの参加者で盗難に遭われた方もおられたようである．しかし，事前の連絡等の不手際より危惧された会議の運営はおおむね良好であり，印象深いイタリアの旅となった．

なお，本国際会議出席にあたり，本協会より第 13 回日向方斉学術交付金をいただきました．

* 本国際会議出席にあたっては，日本鉄鋼協会日向方斉学術振興交付金が賦与されました．

** 大阪大学工学部　工博